

病害虫発生予報 第6号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病害虫名	地域	発生量(平年比)	発生時期	備考
水 稲	穂いもち	全域	やや多	並	
	紋枯病	全域	並	並	
	白葉枯病	全域	並	並	
	ツマグロヨコバイ	全域	並	並	
	セジロウンカ	全域	並～やや多	並	
	カメムシ類(斑点米)	全域	並～やや多	並	
大 豆	子実害虫類	全域	並～やや多	並	
りんご	褐斑病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	斑点落葉病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並	並	
	輪紋病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	すす点病・すす斑病	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	スモモヒメシンクイ	全域	並～やや多	並	
	ハダニ類	全域	並～やや多	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
な し	うどんこ病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	クワコナカイガラムシ	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並～やや多	並	
	シンクイムシ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	

も も	せん孔細菌病	全域	並	並	
	コスカシバ	全域	並	並	
ぶどう	べと病	全域	並	並	
	黒とう病	全域	並	並	
かき	うどんこ病	全域	並	並	
	炭疽病	全域	並	並	
	円星落葉病	全域	並	並	
	カキクダアザミウマ	全域	並	並	
	カキノヘタムシガ	全域	並	並	
	ハマキムシ類	全域	並	並	
	フジコナカイガラムシ	全域	並	並	
キャベツ	菌核病・株腐病	全域	並～やや多	並	
ブロッコリー	黒すす病	全域	並～やや多	並～やや早	
	花蕾腐敗病	全域	並	並	
はくさい	黄化病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	白斑病	全域	並	並	
アブラナ科 野菜	べと病	全域	並	並	
	黒斑細菌病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並～やや多	並	
	コナガ	全域	並～やや多	並	
	ウワバ類	全域	並～やや多	並	
レタス	菌核病	全域	並	並	
	すそ枯病	全域	並	並	
	灰色かび病	全域	並	並	
	腐敗病	全域	並	並	
	べと病	全域	並	並	
	軟腐病	全域	並	並	
	斑点細菌病	全域	並～やや多	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	並～やや多	並	
	斑点病	全域	並	並	

野菜・花き 共通	ハモグリバエ類	全域	並～やや多	並
	オオタバコガ	全域	並	並
	アブラムシ類	全域	並～やや多	並
	アザミウマ類	全域	並～やや多	並
	ハダニ類	全域	並～やや多	並

II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し（気象庁 令和4年9月15日発表）

○関東甲信地方【9月17日～10月16日】

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高い見込み。特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。

気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。

○向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の出現確率(%)

区分	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
平均気温	10	30	60
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

2 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

III 水 稲

1 穂いもち

(1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月上旬の巡回調査における穂いもちの発生は、発病株率は東信地域、北信地域で平年に比べ高かった。

②常習発生地等で、穂いもちの発生ほ場が確認されている。

(3) 防除上の留意点

①穂いもちが発生しているほ場からは、自家採種を行わない。

2 紋枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、全般に平年に比べ発生は少なかった。

②9月上中旬の巡回調査で、発病株率が増加しているほ場がみられ、一部のほ場では、上位葉鞘へ進展もみられている。

3 白葉枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、例年と同様に発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①常習発生地では、発生に注意する。

②高温、多湿、浸冠水、台風が発生を助長する。

4 ツマグロヨコバイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月の巡回調査では、発生は平年並～少なかった。

(3) 防除上の留意点

①収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

5 セジロウンカ

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月のすくい取り調査(本田ネット20回振)における捕獲頭数は、東信地域で平年に比べ多かった。

②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高いと予想されており、活動は活発になると予想される。

(3) 防除上の留意点

①収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

6 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①8月下旬のすくい取り調査における捕獲頭数は、全般的には平年と比べ少ない～平年並であった。

②ただし、北信地域の一部のほ場で、アカスジカスミカメの捕獲頭数が多かった。

(3) 防除上の留意点

①収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

IV 大豆

1 子実害虫類（マメシクイガ、シロイチモジマダラメイガ、カメムシ類）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

- ① 8月は曇りや雨の日が多かったため、発生量は少なめに推移しているものと推定される。
② 一部のほ場では、ホソヘリカメムシ等のカメムシ類が多くみられる。
③ 気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べて高いと予想されており、活動は活発になると予想される。

(3) 防除上の留意点

- ① 防除適期は子実肥大初期であるが、発生が多い場合は7～10日間隔で追加防除する。なお、9月の気温が高めで推移すると、収穫期間近まで被害が発生する場合がありますので、必要に応じて9月下旬頃まで防除を行う。
② 吸実性カメムシ類の生息密度は、畑の外縁部ほど高い傾向があるので、外縁部への散布は丁寧に行う。
③ マメシクイガは移動性が低く、前年に発生が多かった連作畑では被害が発生しやすいので注意する。
④ 収穫期と農薬の安全使用基準に留意する。

V りんご

1 褐斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、南信地域、中信地域、北信地域で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
② 前年発生が多かったほ場では、収穫期まで発生状況に留意するとともに、発病果等は適切に処分する。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、東信地域、北信地域で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
② 薬剤耐性菌のまん延防止のため、殺菌剤の選択においては農業農村支援センター、JAなどの指導を受けること。

3 斑点落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、東信地域、北信地域で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

4 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、中信地域、北信地域で発生がみられたが、平年並の発生量であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 夏場は病斑の拡大が一時停止するが、これからの降雨により胞子が飛散し、翌年以降の発生につながる。園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。
② 病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。
③ 発生の多いほ場では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

5 すず点病・すず斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、北信地域で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
② 降雨が多い場合は、9月下旬まで防除する。ただし薬液の選択に当たっては、品種の収穫期と薬剤の使用時期に注意する。

6 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠

① 巡回調査では、東信地域、南信地域、北信地域で、幼虫による寄生葉（マイン）がみられたが、被害葉率は平年並であった。

② 8～9月の第3・4世代成虫の発生は、前世代より増加する傾向にある。

③ 各地のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並～やや少ない状況である。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

7 スモモヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、シンクイムシ類による被害は見られなかった。
- ②須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、9月に入り多い傾向であった。
- ③佐久市のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや少なかった。中野市のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並～やや多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

8 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高いと予想されており、活動は活発になると予想される。
- ②巡回調査では、県下の全ての調査ほ場でナミハダニの寄生がみられ、多発生のほ場も散見された。リンゴハダニも、各地の一部ほ場で寄生がみられた。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②殺ダニ剤の散布前に徒長枝切りや枝吊りを行い、手散布やSSの縦横走行散布等によって、樹幹内部まで薬液が十分かかるようにする。

9 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、幼虫による新梢被害はみられなかった。
- ②須坂市（果樹試験場、病害虫防除所）のフェロモントラップの誘殺頭数は、平年と比べ少なかった。佐久市、中野市フェロモントラップによる誘殺頭数は、平年と比べやや少ない～平年並だった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②葉が果実に接していると、接触部の果面が食害されることがあるため、早めに摘葉を行う。

VI なし

1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

2 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②園地では防除が徹底されていることから、全般的に発生量はやや少ない。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

3 クワコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①発生の目立つ園では9月中にバンド誘殺を行う。
- ②「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

4 カメムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、寄生はみられなかった。
- ②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、クサギカメムシは平年並で、チャバネアオカメムシはやや多かった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

5 シンクイムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、被害果はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- ②高森町（南信農業試験場）のナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった。

(3) 防除上の留意点

- ①多発園や産卵ピーク時は、間隔をあけすぎないよう「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②今後も気温が高めに推移した場合、晩生種でも被害が多くなる傾向があるので、最終防除時期が早くなりすぎないように注意する。

6 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、寄生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

Ⅶ も も

1 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、東信地域で果実感染がみられたが、全般的に発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①晩生種の果実や枝葉への感染は見つけ次第、必ず取り除き、適切に処分等を行う。
 - ②「県防除基準」を参照し、発生ほ場では収穫後も必ず防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ③台風の襲来など強風と降雨により感染量が増えるので、気象情報にも注意する。

2 コスカシバ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①成虫の発生盛期は、9月上中旬である。
 - ②発生園では、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

Ⅷ ぶどう

1 べと病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、県下の全ての調査ほ場で発病がみられたが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①発生が多い場合は、葉の保護のため「県防除基準」を参照し、収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

2 黒とう病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、北信地域の一部ほ場で、茎葉に発病がみられたが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①発生が多い場合は、茎葉の保護のため「県防除基準」を参照し、収穫後に防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ②発生が多かったほ場では、巻きひげ等が翌年への伝染源にもなるので、適切に必ず処理する。

Ⅸ か き

1 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

2 炭疽病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
 - ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ②降雨前に重点的に防除する。

3 円星落葉病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠

- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②散布むらがないように丁寧に防除する。

4 カキクダアザミウマ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

5 カキノヘタムシガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

6 ハマキムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

7 フジコナカイガラムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかったが、発生量は平年並であった。
- ②高森町（南信農業試験場）のフェロモントラップによる誘殺頭数は、8月第6半旬～9月2半旬にかけて増加傾向である。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

X 野菜

1 キャベツ菌核病・株腐病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠

県防除基準；長野県農作物病害虫・雑草防除基準
農薬はラベルをよく読み適正使用に努めましょう。

- ①巡回調査では、南信地域の一部ほ場で株腐病の発生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
- ①被害株はできるだけ早く処分する。特に菌核形成前にはほ場から除去する。

2 ブロccoli黒すす病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並～やや早
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、南信地域の一部ほ場で葉に発生がみられた。
- ②降雨と強風により発生しやすい。
- (3) 防除上の留意点
- ①出蕾前の外葉に発生すると、花蕾に感染する危険性が高くなるため、葉での発生に注意する。

3 ブロccoli花蕾腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
- ②出蕾期に曇雨天が続いた場合に多発しやすい。
- (3) 防除上の留意点
- ①被害株はできるだけ早く処分する。

4 ハクサイ黄化病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では発生はみられなかった。
- ②本病は秋はくさいで発生が多い。
- (3) 防除上の留意点
- ①連作を避ける。
- ②結球期になって急に病勢が進むので、発病したら収穫を早める。

5 ハクサイ黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①白斑病同様、肥料切れは発生を助長するので、適正施肥に努める。
- ②常発地では、「県防除基準」を参照し、結球初期から防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

6 ハクサイ白斑病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ②酸性土壌や肥料切れは発生を助長するので、酸度矯正や適正施肥に努める。

7 アブラナ科野菜 ベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①ハクサイでは、耐病性品種を用いる。

②発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

8 アブラナ科野菜黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①毎年発生するほ場では、定植直後からの予防防除を重視する。

②発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

9 アブラナ科野菜 軟腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、東信地域、中信地域のキャベツ、はくさいの一部ほ場でみられた。

(3) 防除上の留意点

①毎年多発するほ場では、予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。

②降雨後は、速やかに「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

10 コナガ（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、東信地域のキャベツ、東信地域、南信地域のブロッコリーの一部ほ場でみられた。

(3) 防除上の留意点

①薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

②散布むらのないように、葉裏まで十分薬液がかかるようにする。

③「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

11 ウワバ類（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、南信地域のブロッコリーの一部ほ場でみられた。

(3) 防除上の留意点

①若齢幼虫は葉裏に寄生しているので、葉裏にも薬液がかかるよう散布する。

12 レタス菌核病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①結球初期の殺菌剤散布が重要である。

②「県防除基準」を参照し、防除する。

③常発地や高冷地では、曇雨天が続いた場合に多発しやすいので注意する。

13 レタスすそ枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①高畦にして、排水をよくする。

②「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

③春・秋の連作で発生しやすいので注意する。

14 レタス灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

15 レタス腐敗病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①常発地では耐病性品種を栽培し、予防散布する。

②降雨後は、速やかに「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

16 レタスペと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では発生はみられなかった。

②例年、秋雨時に発病がみられる。

(3) 防除上の留意点

①耐病性品種を用いる。

②定植後から、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

17 レタス軟腐病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では発生はみられなかった。
 - ②降雨により発生が多くなる。
- (3) 防除上の留意点
- ①毎年多発するほ場では予防を徹底し、排水対策や耕種的防除に努める。
 - ②降雨後は、速やかに「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

18 レタス斑点細菌病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、東信地域、中信地域の一部ほ場でみられた。
- (3) 防除上の留意点
- ①降雨後は、速やかに防除を実施する。
 - ②害虫による食害は本病の発生を助長するので、害虫防除にも努める。
 - ③発病を認めたら直ちに、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。

19 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、北信地域のほ場で発生がみられ、一部の露地栽培ほ場では発生が目立つところがあった。
 - ②例年、秋雨時に進展がみられる。
- (3) 防除上の留意点
- ①発病茎、枯死茎は見つけ次第除去し、焼却等により処分する。
 - ②過繁茂にせず、通風を良くする。
 - ③株が弱ると発病しやすくなるので、刈り取り前まで株の養成に努める。

20 アスパラガス斑点病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では発生はみられなかった。
 - ②例年、秋雨時に病気の進展がみられる。
- (3) 防除上の留意点
- ①通風をよくするため立茎数を制限し、徒長倒伏しないよう上部を刈り取る。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ③薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

21 ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**

- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、南信地域、中信地域の一部のねぎの栽培ほ場で寄生がみられた。
- (3) 防除上の留意点
- ①被害葉は見つけ次第摘葉し、ほ場から持ち出して処分する。
 - ②施設栽培では、施設開口部に防虫ネットを設置して侵入を防ぐ。
 - ③早期発見に努め、密度の低いうちに、「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ④成虫は黄色に誘引されるので、黄色粘着板を用いたモニタリングも有効である。

22 オオタバコガ（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、被害はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①施設栽培では、開口部を寒冷紗等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
 - ②幼虫の早期発見に努め、若齢幼虫を対象に防除を徹底する。
 - ③果菜類等で産卵を認めたら、その数日～1週間後くらいが防除適期である。
 - ④「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ⑤薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

23 アブラムシ類（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、中信地域のアスパラガスの一部ほ場で寄生がみられた。
 - ②塩尻市の粘着トラップ調査では、8月下旬以降増加傾向にあり、9月第1半旬の捕殺数が平年の3倍以上となっている。
- (3) 防除上の留意点
- ①CMV等のウイルスを媒介するので、早期防除を心がける。特に果菜類ではよく観察し、アブラムシのコロニーを見つけたら速やかに防除を実施する。
 - ②「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
 - ③施設栽培では、天敵の利用も有効である。

24 アザミウマ類（野菜・花き全般）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では南信地域、中信地域のアスパラガスの一部ほ場で寄生がみられ、南信地域、中信地域のねぎの一部ほ場で寄生が多いところがあった。
 - ②気象要因(+) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高いと予想されており、活動は活発になると予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①ウイルスを媒介するので、早期発見に努め、被害や成虫を確認したら直ちに防除を実施する。

- ②「県防除基準」を参照し、防除する。なお、使用する薬剤の使用時期等農薬の使用基準を遵守する。
- ③害虫の寄生している花や葉裏に、薬剤が十分かかるよう散布する。
- ④薬剤耐性菌出現を防止するため、同一系統・同一薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布し、散布後は効果を確認する。
- ⑤施設栽培では、天敵の利用も有効である。

25 ハダニ類（野菜・花き）

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多** 発生時期：**平年並**
- (2) 予報の根拠
 - ①巡回調査では、北信地域の露地栽培のきゅうりの一部ほ場で寄生がみられた。
 - ②気象要因（+） 向こう1か月の気象予報では、気温は平年に比べ高いと予想されており、活動は活発になると予想される。
- (3) 防除上の留意点
 - ①被害を早期に発見する。薬剤による防除は、ハダニ類の寄生している葉裏に薬液が十分かかるよう散布する。
 - ②薬剤散布後は効果を確認し、効果の低い剤及び同一系統剤の使用を避ける。
 - ③施設栽培では、天敵の利用も有効である。